

# 市営バス事業の持続可能な自立経営に向けた取組 ～高槻市営バスの小さな挑戦～



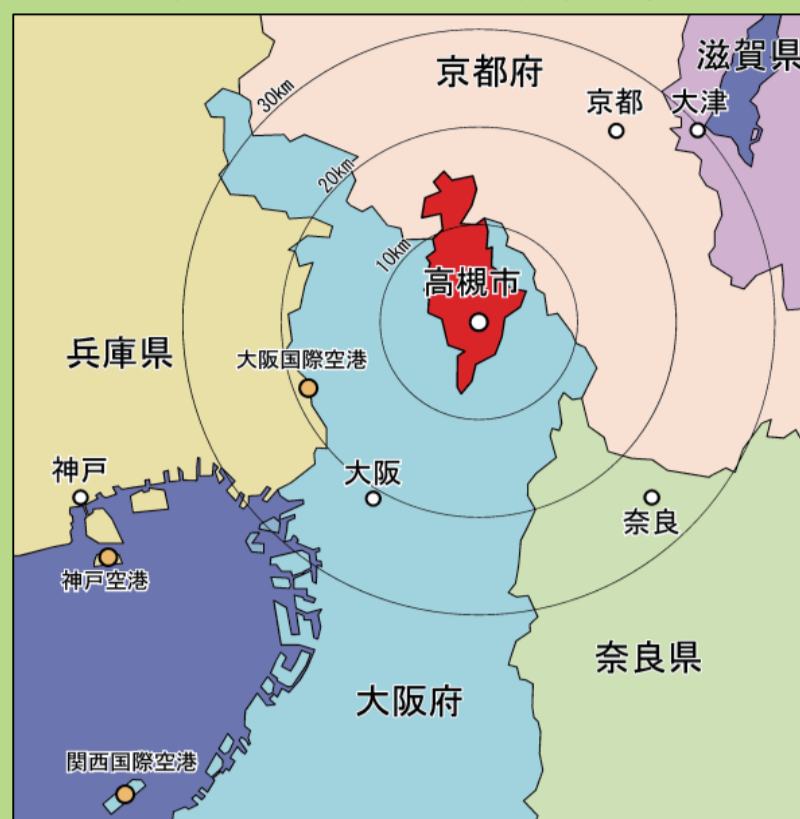
たかつきばす

大阪府高槻市 吉岡昇 薬師寺千春 前田浩成 堂脇誠司 木村加代子  
 近畿大学 高橋愛典 毛海千佳子 / 立命館大学 井上学  
 中央復建コンサルタンツ㈱ 山室良徳 富久直哉 山崎雄一

## ◆ 背景と目的

### <高槻市の概況>

人口約35万人の中核市

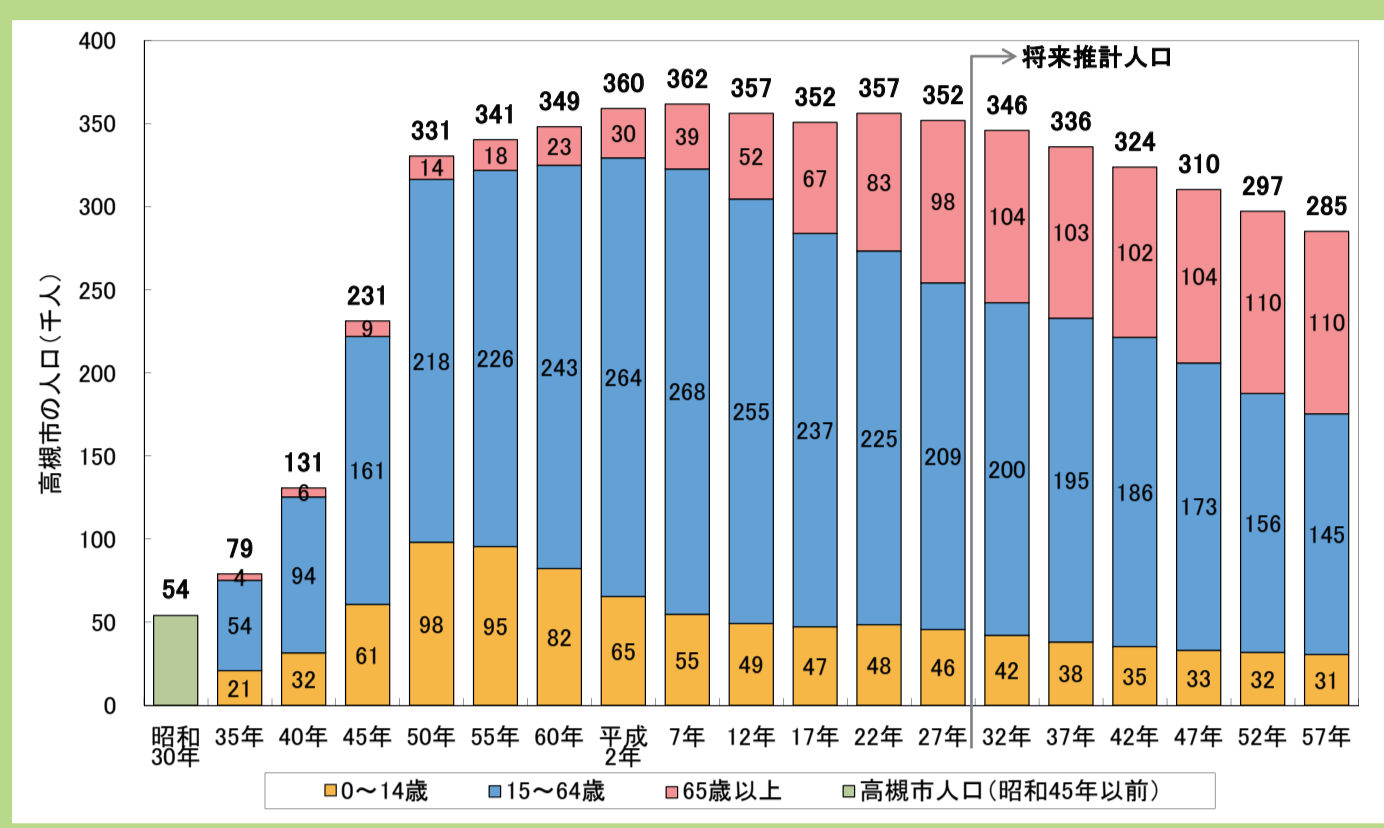
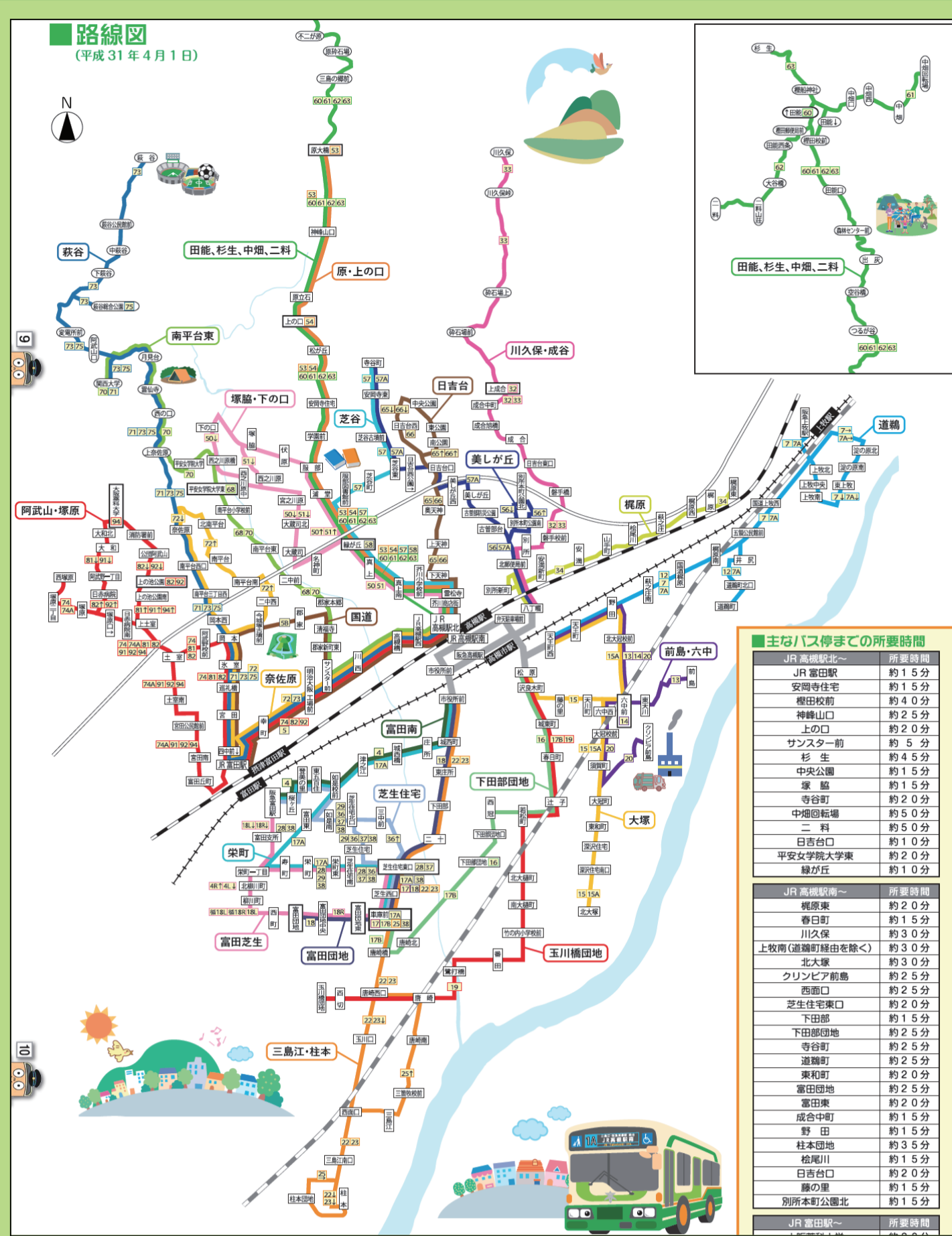


### <市営バスの概況>

大阪府内で唯一の公営バス事業を展開

#### ■ 路線の特徴

- ① 鉄道駅を起点とする南北方向の路線が多い
- ② 鉄道を南北に縦断する路線の要望が多い



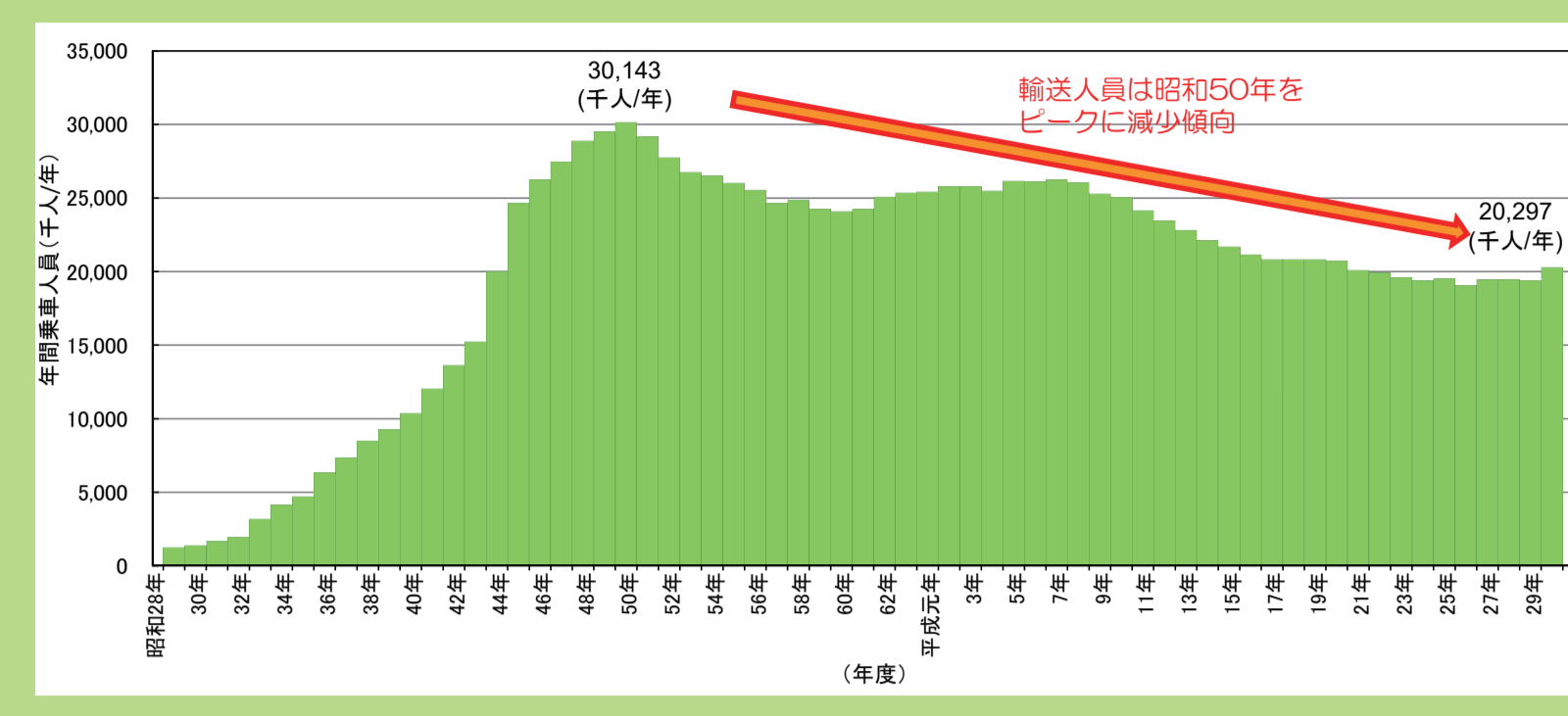
### <事業規模 令和2年4月(現在)>

- ・車両：171両
- ・職員：308名
- ・運賃：均一区間220円
- ・路線数：24路線
- ・営業キロ：126km



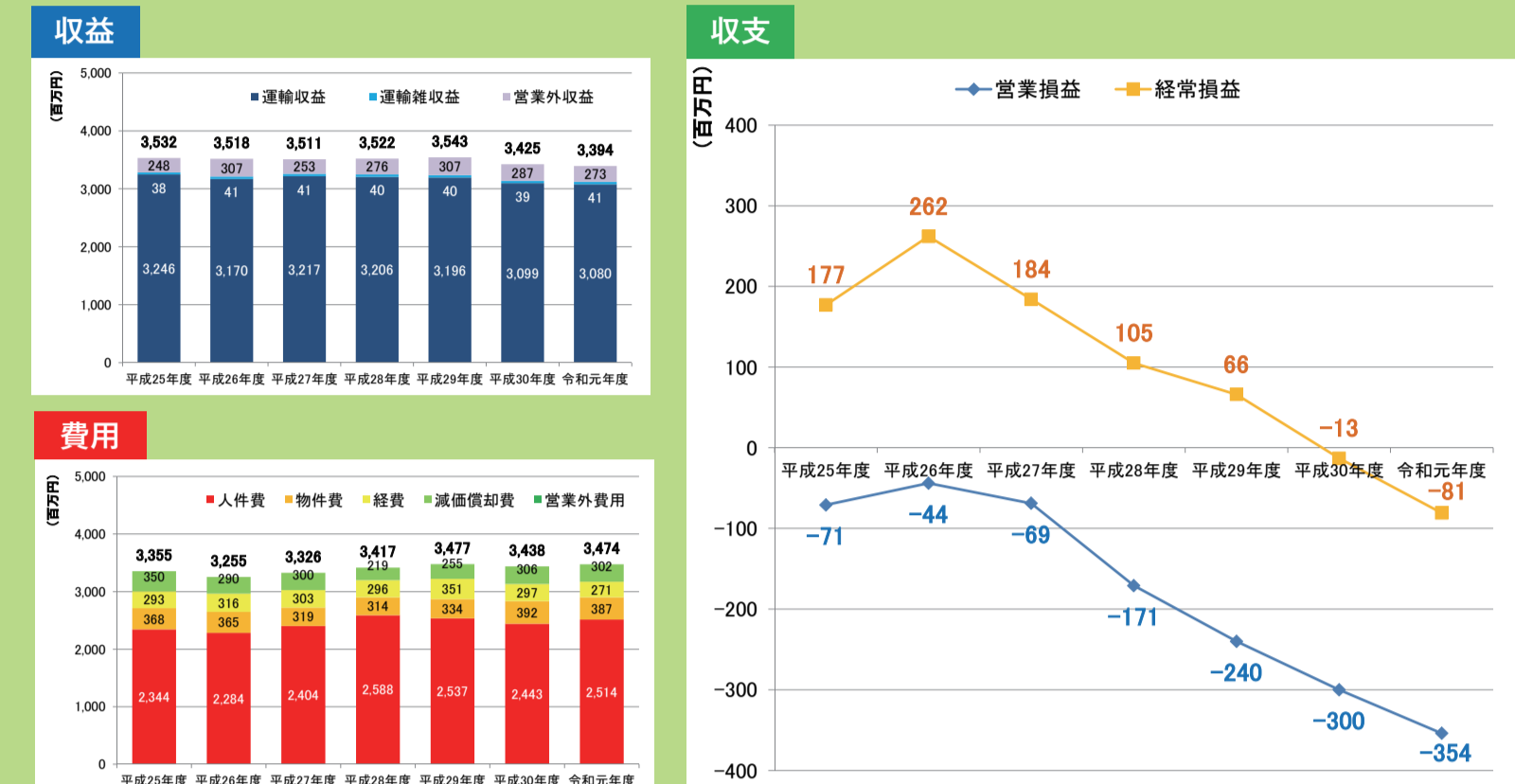
### <利用者数の推移>

昭和50年度にピークとなり、平成30年度にはピーク時のおよそ6割まで減少



### <収支状況>

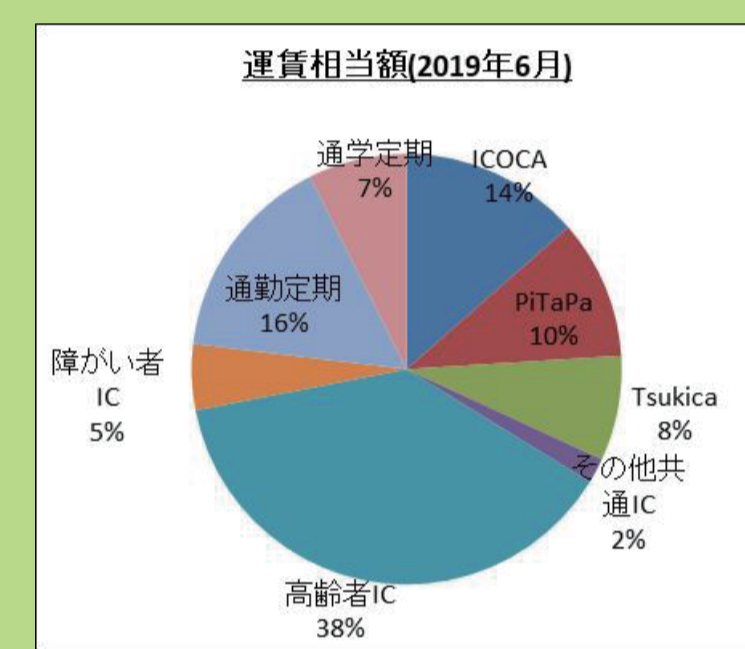
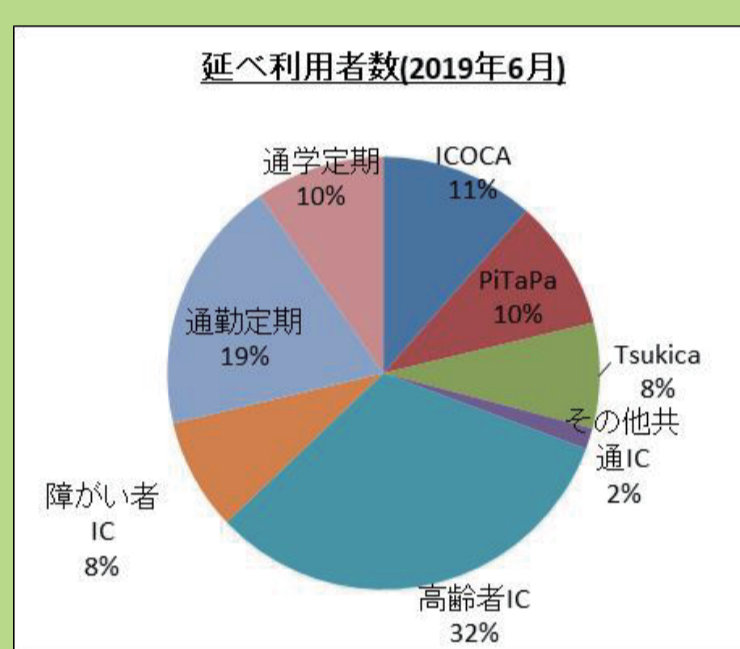
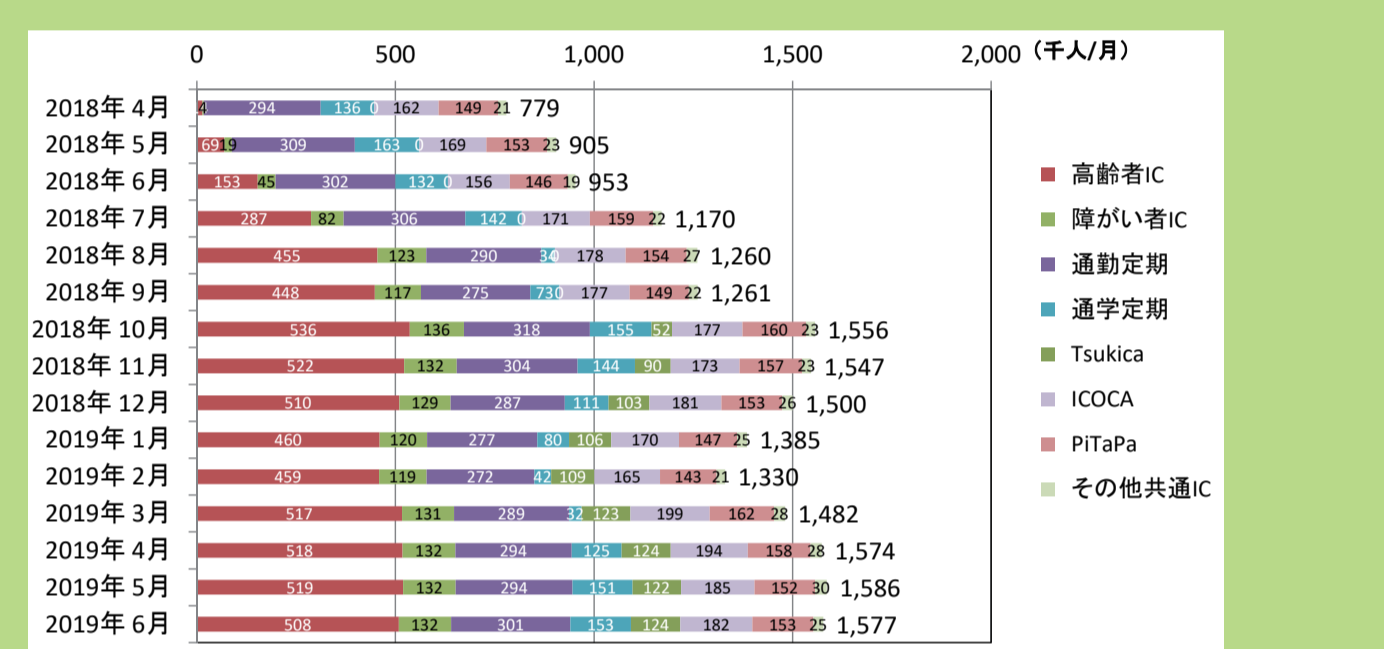
- ・平成9年度～平成29年度まで、経常赤字で推移してきたが、赤字額は減少を続け、平成30年度は、赤字決算となった
- ・特に、バス事業の営業損益は長年赤字で推移し、増加傾向。路線別では、「黒字路線」は全24路線中4路線のみで、4路線の黒字で20路線の赤字をカバーする構造



## ◆ 主な取り組みの紹介

### <ICカードの利用状況>

- ・2018年4月より、福祉乗車証(高齢者・障がい者)をICカードに切り替え
- ・2018年10月より、市営バス専用ICカード(Tsukica)の運用を開始
- ・ICカード全体の利用は約150万人/月



- ・高齢者の延べ利用者数の割合は全体の32%、運賃相当額ベースでは38%
- ・2018年10月～2019年6月(9ヵ月)の高齢者ICの運賃相当額は約10億円(12ヶ月換算で約13.4億円)

### <特徴的な利用実態>

#### ■ 短区間での利用

- ・隣接するバス停1区間だけの利用は全ODの約1.5%程度
- ・高齢者IC及び障がい者ICについては2.5～2.8%とやや高い比率
- ・1区間利用ODの約57%が高齢者IC、約16%が障がい者ICとなっており、7割以上を福祉乗車証が占めている
- ・利用区間は、市役所と高槻駅間や、北部丘陵地での利用が多い

券種	利用区間別利用者数			利用区間別利用比率		
	1区間(人)	2区間(人)	3区間以上(人)	1区間(%)	2区間(%)	3区間以上(%)
高齢者IC	115,292	267,559	4,166,230	2.5%	5.9%	91.6%
障がい者IC	32,723	68,559	1,062,888	2.8%	5.9%	91.3%
その他	54,593	130,537	7,639,522	0.7%	1.7%	97.6%
券種計	202,608	466,655	12,868,640	1.5%	3.4%	95.1%

OD区間	平日1日当たり平均(人/日)		高齢者IC・障がい者ICの割合	
	高齢者IC	障がい者IC	券種計	高齢者IC・障がい者IC
JR高槻駅南 ⇄ 市役所前	106.1	34.0	165.3	64.2%
阪急高槻駅 ⇄ 市役所前	74.4	31.2	119.5	62.2%
安岡守住宅 ⇄ 松が丘	67.5	10.1	90.1	74.9%
阪急高槻駅 ⇄ 天王町西	61.5	13.0	82.4	74.7%

#### ■ 経路を乗り継いでの利用

- ・2019年6月における路線間の乗継利用は全利用者数の約4.1%で、大半が無料乗車証での利用
- ・高齢者及び障がい者IC、全利用者数の約7～9%が乗り継ぎ利用で、他券種に比べて比率が高い

券種	全利用者数(人/月)	乗り継ぎ利用者数(人/月)	(%)
通勤定期	300,634	12,176	4.05%
通学定期	152,650	2,032	1.33%
Tsukica	124,185	1,213	0.98%
高齢者IC	508,257	34,515	6.79%
障がい者IC	131,693	11,813	8.97%
ICOCA	181,566	1,158	0.64%
PITaPa	153,383	873	0.57%
その他共通IC	24,954	203	0.81%
券種計	1,577,322	63,983	4.06%

### <利用実態から見た課題路線の特徴分析①>

#### ■ 樫田線(山間路線)

##### ① 路線概要

- ・JR高槻駅北側から市域北中央部の山間地域を結ぶ路線
- ・平日、駅から樫田方面が9便、駅方面に行く便が10便

##### ② 令和元年度の収支

- ・約6,828万円の赤字(23位/24路線)

##### ③ 沿線状況

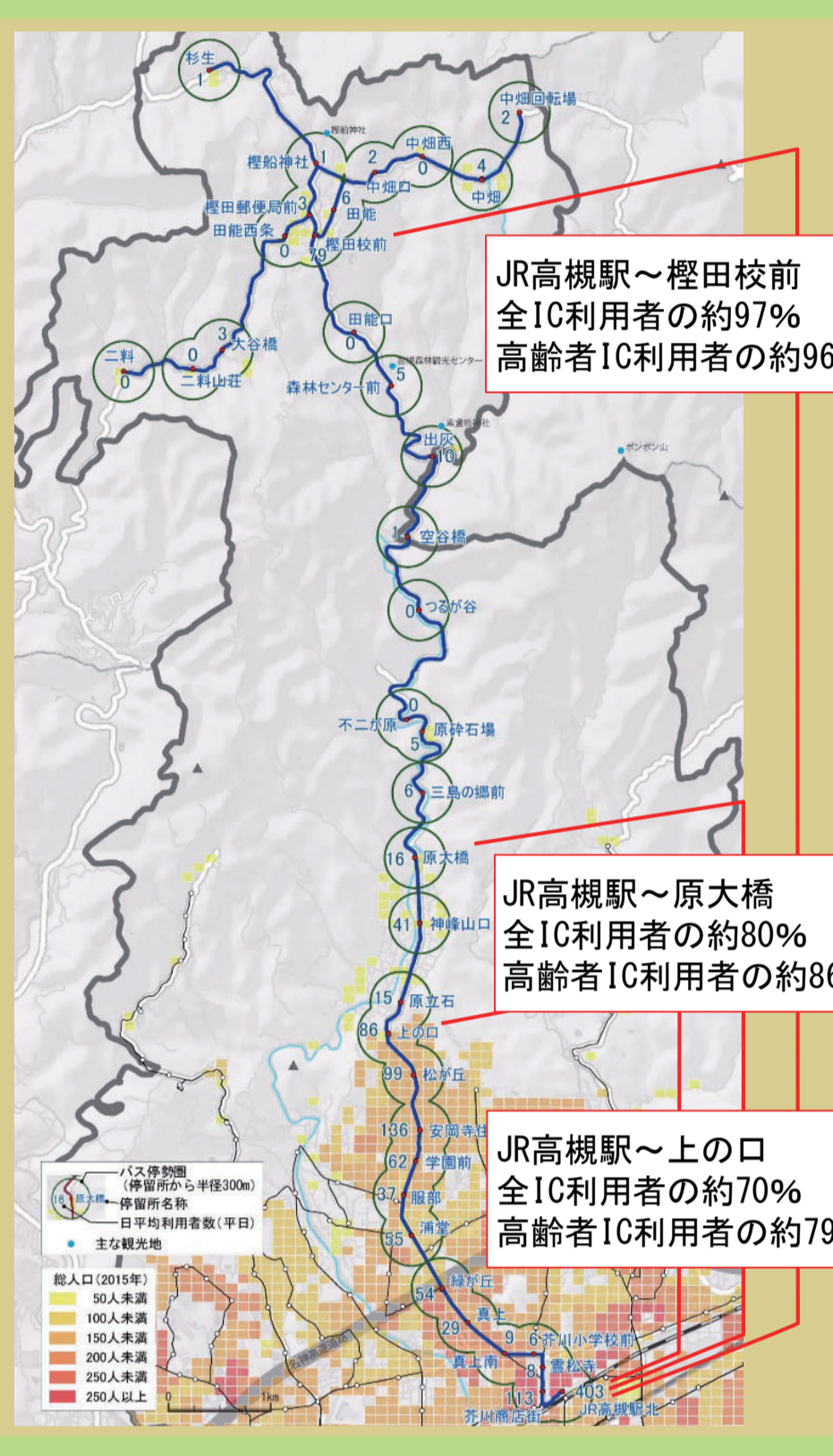
- ・上の口から北側は市街化調整区域のため人口が少ない
- ・上の口までの沿線周辺には商業施設や総合病院が立地
- ・「しょうぶ園」「高槻フラワーパーク」などの沿線施設が現在は廃休業

##### ④ ODデータによる考察

- ・路線全体のICカード利用者は、394人/日(20位/24路線)
- ・平日、全ICカード利用者数の約70%が上の口まで、約80%が原大橋まで、約97%が樫田校前までの利用

#### ★今後の見直しの方向性(案)

原大橋から北側の区間で、小型モビリティやデマンド交通など、路線バスに代わる他の交通手段導入を検討する



### <利用実態から見た課題路線の特徴分析②>

#### ■ 柱本・三島江線(長距離路線)

##### ① 路線概要

- ・JR高槻駅南側から市域南部の柱本・三島江地区を結ぶ路線
- ・一部は復路三島江・唐崎経由で運行している
- ・路線の距離が長く所要時間も要し、遅延も発生しやすい

##### ② 令和元年度の収支

- ・約10,496万円の赤字(24位/24路線)

##### ③ 沿線状況

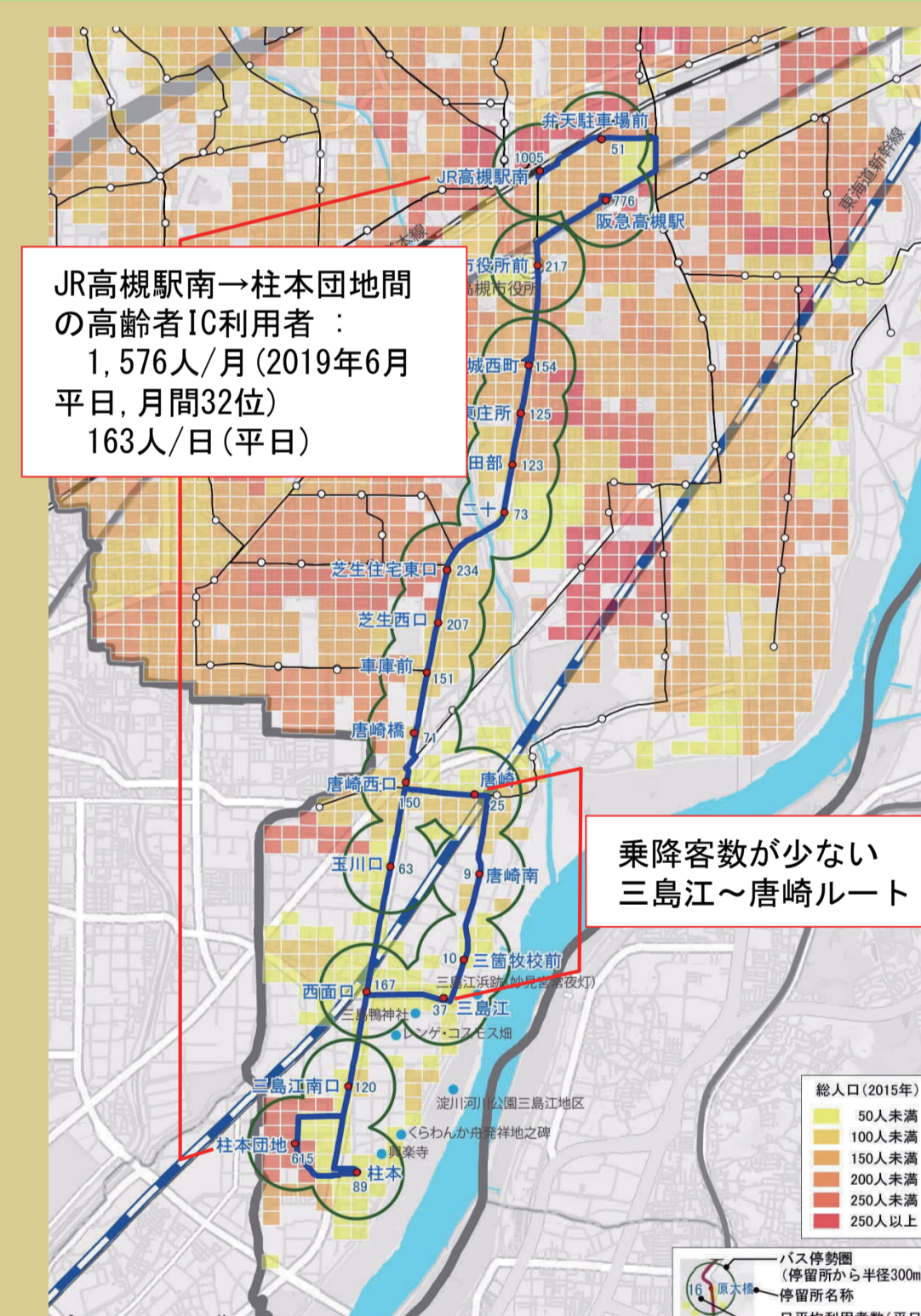
- ・車庫前バス停以南は事業所や農地が立地している

##### ④ ODデータによる考察

- ・路線全体のICカード利用者は、2,236人/日(11位/24路線)
- ・三島江～唐崎方面へのルートにおける各バス停の利用者は50人/日を下回っている

#### ★今後の見直しの方向性(案)

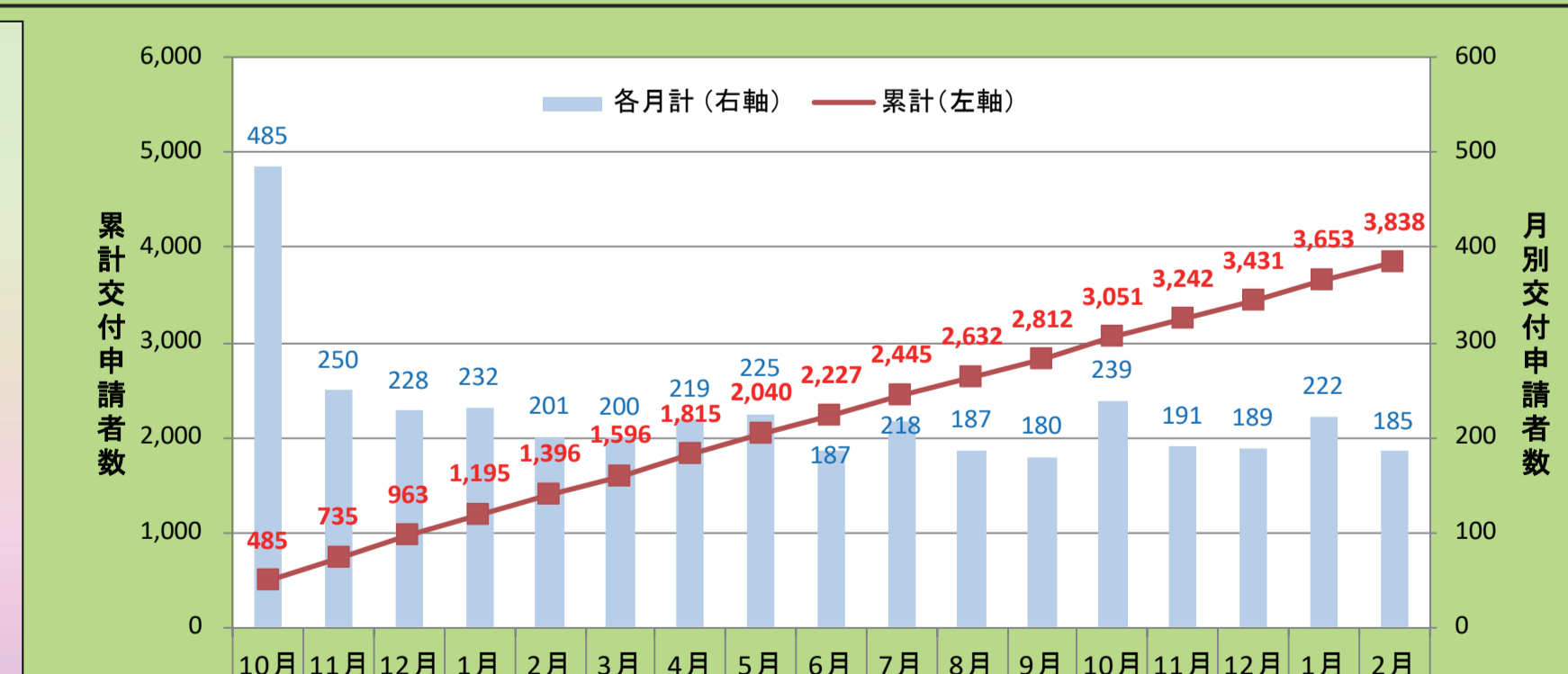
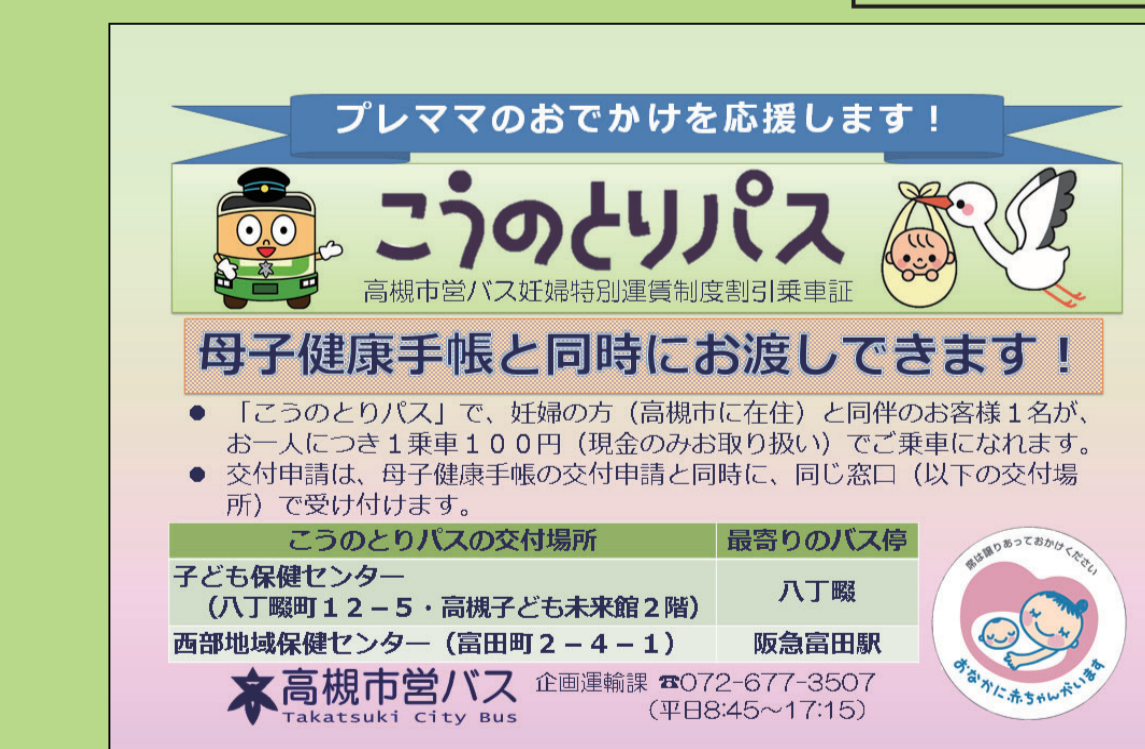
車庫前バス停から南側の区間について、対キロ区間制や特殊区間運賃の導入や、車庫前で接続するゾーンバスとする等、路線全体の効率化を検討する



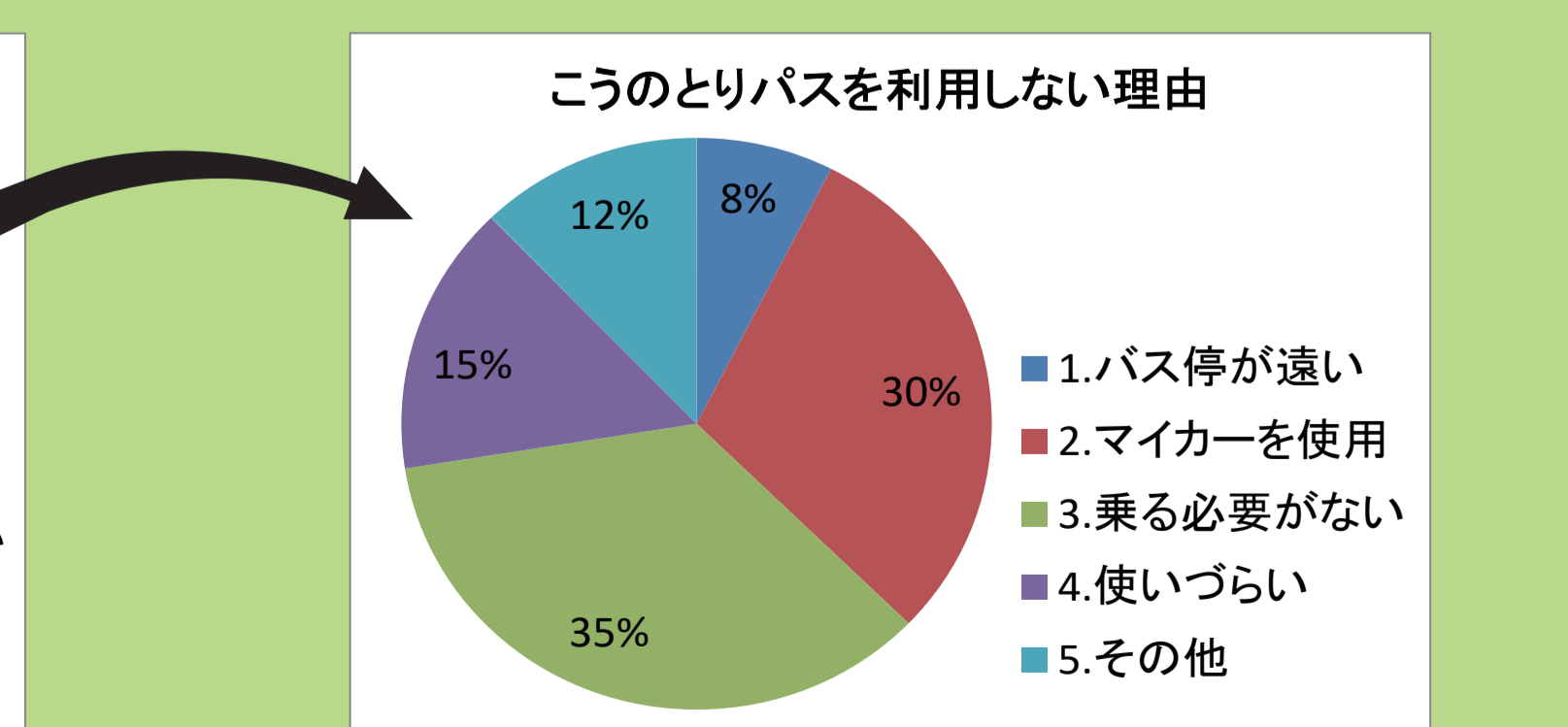
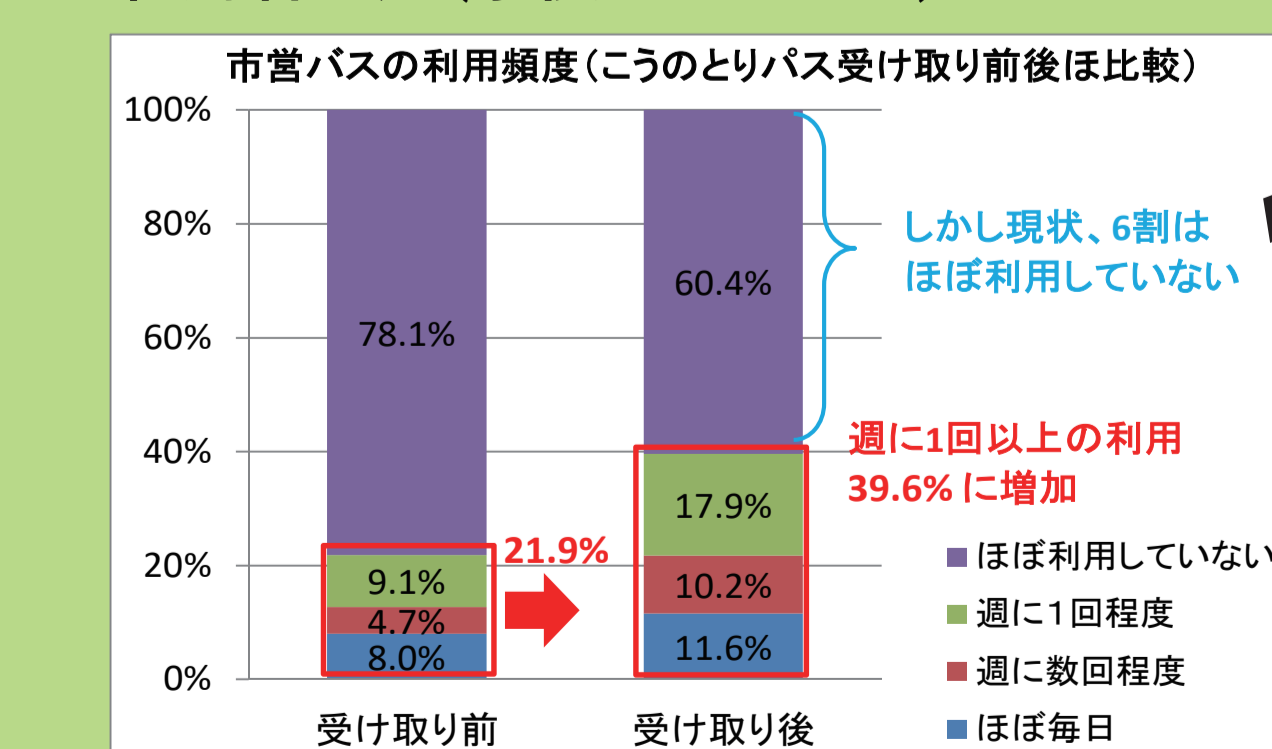
### <こうのとりのバス>

#### ■ 利用者数の推移

子育て世帯を支援するため、平成30年10月1日から妊娠中の人の運賃を割引する「こうのとりのバス」の交付を開始



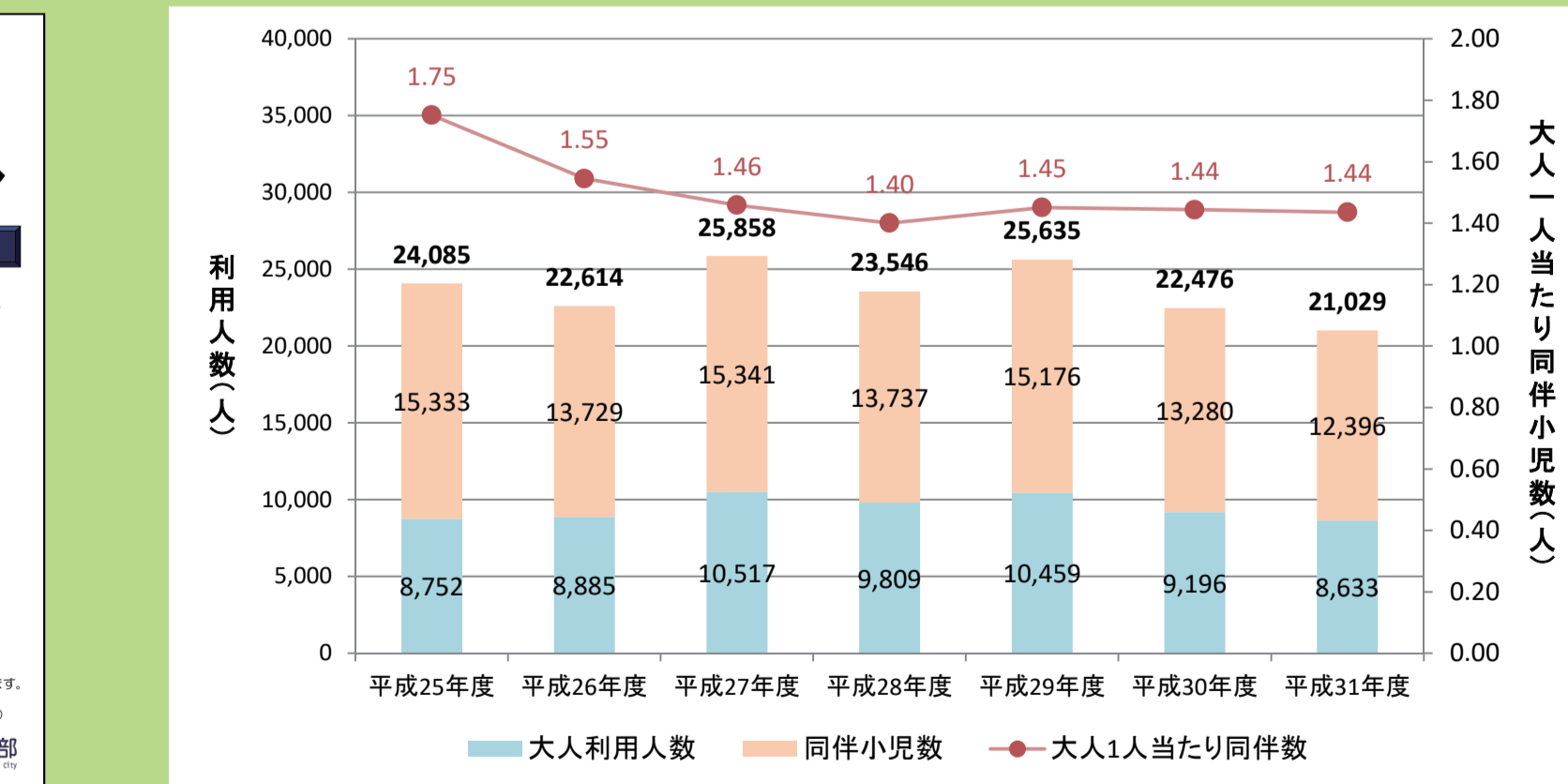
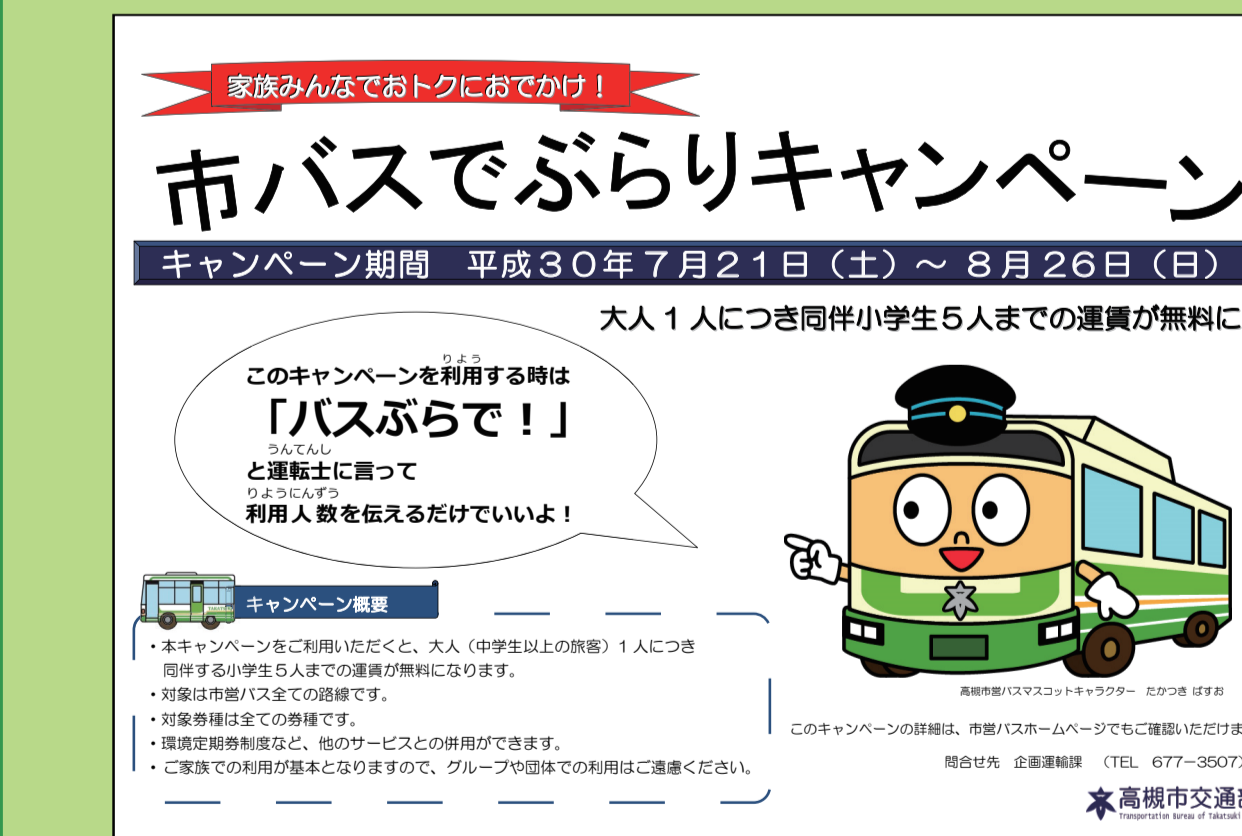
#### ■ 利用者の声(事後アンケート)



### <市バスでぶらりキャンペーン>

夏休み期間中、大人1人につき同伴の小学生5人まで運賃が無料となるキャンペーン。将来の重要な顧客となる小学生向けに、平成25年から実施

#### ■ 利用者数の推移



#### ■ これまでの経緯

- ・本キャンペーンは開始から5年が経過したが、高槻まつりやお盆期間を中心に、約1万件、1万5千人の小学生の利用があり、一定の効果あり
- ・一方で、家族の利用を前提としているものの、グループでの利用も散見され、それによって臨時便の運行が必要となる等の課題も発生

### <ベビーカー乗車体験教室>

#### ■ 利用者数

H29年度 18名 H30年度 22名

#### ■ 利用者の声

- ・時刻表などでどの座席の種類のバスが来るのか分かるようにしてもらいたい
- ・もう少しベビーカーが乗れるスペースのあるバスが多くなってほしい
- ・分かりやすく教えてもらったので、ぜひ乗りたい



### <その他>

